

都城市議会議長様

提出日 令和 6 年 4 月 19 日

産業経済委員会行政視察報告書

以下のとおり視察の報告をいたします。

1 委員会名及び視察者名

◆産業経済委員会

◆視察者

委員長：筒井 紀夫

副委員長：成合 円美佳

委員：杉村 義秀、長友 潤治、川内 賢幸、楠見千穂子、坂元 唱子

2 視察先・テーマ及び日時

日 時：令和 6 年 4 月 9 日（火） 9：00～13：00

視 察 先：谷川用水（高崎町前田）

高崎農産加工センター

たちばな天文台

調査事項：農業基盤整備に関する事項と指定管理に関する事項について

3 視察の内容

(1) 谷川用水（農政部農村整備課 高崎産業建設課）

○谷川用水路 5 号トンネルの崩落状況。

○工事に至る経緯。

- ・令和 4 年 8 月に 5 号トンネルが崩落により通水が不能になった。
- ・災害復旧手続きの 7 月に報告義務があるが災害認定に間に合わなかった。
- ・令和 4 年 8 月 8 日既設隧道を推進工法による掘削で検討。
- ・令和 4 年 9 月 30 日再崩落による二次災害の危険性が高いことが判明、仮設工法を採用。
- ・令和 5 年 1 月 17 日仮設工法のルート上に高硬度の岩盤発覚により工事の中止決定。
- ・令和 5 年 2 月 6 日代替え用水として畑地かんがい用水を使用することを受益者全員のアンケートの結果、土地改良区が使用を断念。
- ・令和 5 年 3 月 16 日工法検討会（北諸県農林振興局・市・コンサルタント）を実施、H 形鋼支保工によりトンネルを新設する工法採用。

- ・令和5年6月30日1工区契約完了。
- ・令和5年9月21日2工区契約、工期末は令和6年5月24日
進捗率は89.5%3月末現在。
- ・令和6年5月から仮通水を始める。
- ・トンネル掘削工事については酸素濃度検査を1日2回行っている。

(2) 高崎町大牟田農村加工センター

- 加工体験場が使用されていない状況である
- 農産物の商品置き場が狭すぎる。
- 駐車場が狭すぎる
- 指定管理者は駐車場の狭い中でお客の受け入れをよくやっている。

(3) たちばな天文台

- 大型望遠鏡の土台の板が痛んでいる。
- 南側の室内展望は景色が良い。
- 東側は民有地の樹木が大きくなってきているため景観が損なわれている。
- 地面から床に隙間がないため床が結露している。
- 雨漏りがしている。

提出日 令和 6 年 4 月 19 日

産業経済委員会行政視察報告書

報告者 筒井紀夫

1 日時・視察先及び調査事項

日 時：令和 6 年 4 月 9 日（火） 9：00～13：00

視 察 先：谷川用水（高崎町前田）

高崎農産加工センター

たちばな天文台

調査事項：農業基盤整備に関する事項と指定管理に関する事項について

2 施設の現状と課題

(1) 谷川用水（農政部農村整備課 高崎産業建設課）

① 現状

- 令和 4 年 8 月に谷川用水路 5 号トンネルが崩落により通水が不能となったことに伴い既設隧道を推進工法による掘削を検討。
- 令和 4 年 9 月 30 日再崩落による二次災害の危険性が高いことが判明、水路を大きく迂回させる仮設工法を採用。
- 令和 5 年 1 月 17 日仮設工法のルート上に高高度の岩盤発覚により工事中止決定。
- 令和 5 年 3 月 16 日 H 型鋼支保工によりトンネル新設する工法を採用
- 令和 6 年 5 月の仮通水に向けて工事中である。
- トンネル掘削工事については酸素濃度検査を 1 日 2 回行っている。

② 課題

- 既存の旧 5 号トンネルをどうするか検討課題である。

(2) 高崎大牟田農産加工センター（地域振興部 高崎産業建設課）

① 現状

- 地域の農産物販売だけとなっており、加工センターが使われていない。

② 課題

- 現在の加工体験室部分を地域特産物展示販売所に広げて、空き部屋を加工体験室をリニューアルする。
- 駐車場が少ない

(3) たちばな天文台（商工観光部 みやこんじょPR課）

① 現状

- 平成3年度に整備され、建設から30年を経過して老朽化が進み、雨漏りがしている。
- プラネタリウム見学ができない。
- 地面から床に隙間がないため床が結露している。

② 課題

- 基礎からの改修が必要であり、大型望遠鏡の更新を必要とする。
モバイルプラネタリウム見学ができる整備が必要
- 児童学生、地域の大人へのPRが必要である
- 東側の民有地の樹木が大きくなってきている。

市政への反映事項（課題等）

(1) 谷川用水

- トンネルの部分の確認が必要である

(2) 高崎農産加工センター

- 集客を求めるなら駐車場の確保が必要である

(3) たちばな天文台

- 「日本一星空の美しい街」を都城市としてしっかりPRしていく。

視察の感想

- 加工センターは駐車場が少ない。
- 商品販売展示場がせまい。
- たちばな天文台の大型望遠鏡は基礎が痛んでいる。
- 展望の景色がきれい。

産業経済委員会行政視察報告書

委員名 成合円美佳

1 視察の感想

谷川用水については、担当課長より、山の神様は女性であり、敬意を払って、トンネルに入る前に一礼をすることの指示があり、丁重に一礼して入ったが、過去に敬意を払わず入ってしまったって起こった何かとは何だったのかが気になった。耐震について質問をしたが、たぶん大丈夫だということであったが、たぶんでいいのか少し気になった。

高崎農産加工センターについては、加工体験室をリフォームしてイートインスペースができるということで、ご高齢な市民の方々などにとって、憩いのできるのは大変よいことだと思った。今回、指定管理者になっているロックスの代表の大内さんが、視察の対応をしてくださったが、非常に感じがよく信頼感を感じた。以前、別の指定管理のある施設で、顔も見せてくれない所があったので、それだと何か不審な点があるのかと心配になった。今回は、どうぞ見てくださいという感じで、説明も丁寧でよかった。利用がほとんどない時代に合わない部屋等はどんどん改善して、別の用途にしていってほしいと思った。トイレ等を見ておかなかったことを後悔している。

たちばな天文台については、私が議員になる前から機材や建物の老朽化の話は耳にしていたので、今回予算がついて本当に良かったと思った。

寝転がって見るタイプのプラネタリウムは昼限定ということだが、ぜひ子どもを連れてリニューアル前に体験し、ビフォーアフターを知っておきたいと思った。

2 視察の成果及び本市議会への反映等

※視察の成果、本市議会に反映するために参考になった事項などを記載。

谷川用水については、同じ水路トンネルでも、ここからは市、ここからは県というように、管理が異なるというのは、よくあることだと先輩議員は話していたが、連結してしまった後に地震等の災害が起これば、古いままの部分の崩壊してしまうことも考えられるのではないと思う。100年以上も経っているということであれば、これを機に、県のほうも、市の掘削工事方法に合わせて、別の新しいルートに新トンネルを作るよう計画を立ててほしい。そのような運びになるよう、市議会のほうで、意見書なりを書くことも一つなのではと思った。

高崎農産加工センターについては、担当から、これまでは60代～80代の女性の利用が主であったが、リニューアル後は、子どもやお母さん世代が来店するようになることを目指していると説明があったので、その世代はまさに自分のような世代だと受け取った。それに見合う施設になるのかしつかり見ておきたい。農産加工センターなので、道の駅とまではいかないだろうし、でも、「星の駅」とは銘打っているのだから、どこまで求めているのかがいまいち分からないが、子育て世代に来てほしいのであれば、最低でもおむつ替えのス

ペースなどはあるのかなど確認しておく必要があると思った。

たちばな天文台は、3500 万の大きな予算が出たこと自体、前進ではあるが、物がオリジナルでオーダーメイドが必要なものばかりなので、発注してその予算でできるのか心配になった。これから調査や調整ということだが、それに見合った予算が追加されるなりするよう委員会として見守っていきたい。

産業経済委員会行政視察報告書

令和 6 年 4 月 18 日

委員名 杉村 義秀

谷川用水路

谷川用水路復旧工事について、高崎支所にて現地概要説明を受けた後に現地訪問調査する
110 年経過している令和 4 年の崩落によって通水不能となり、災害復旧事業として一時的に
工事の中止をしながらルート変更をして県営事業として H 形鋼支保工により、トンネルの
新設工法で行っている（ $l = 497\text{ m}$ ）

1 工区 43,505 千円で令和 5 年 10 月下旬に完成、2 工区は 208,089 千円で現在 89.5%
令和 6 年 5 月末が完成予定であり、碎石や残土の持ち出し等の難工事と思われ酸欠、湧水
等の危険性を受けながらの進捗は大きな事故災害の危険性を伴いながらの隣り合わせの受
益者に対する難工事には大事業であると思った。又、開きようによる全掘削による工事は出
来ないのか考えた次第であった。

高崎農産加工センター

全国的に対する道の駅の建設増加の時代である。ここは合併時前よりの施設であり、高崎町
特産のみそなどを加工した特産品や地場産を工夫して販売している所である。加工して地場
産として又農産物品を販売し加工しているこのセンターの持続性を願う所である。

たちばな天文台

1 階から 3 階まで合併前より建設されたこの天文台は、有名時となり現在は老朽化が進み
建物の雨漏りや器具も全体的に見直しが必要である。この天文台は全国的に珍しく、科学的
に必要であると思える。地球の又全世界的にこの様な科学に人や学生が一層学べる重要な
場所であることを学んだ。

産業経済委員会(第5回)視察報告書

長友潤治

提出日 令和6年4月26日

日時:令和6年4月9日(火)9時00分～13時00分

視察場所:谷川用水、高崎農産加工センター、たちばな天文台

出席者

- ・ 委員:筒井紀夫、成合円美佳、杉村義秀、長友潤治、川内賢幸、楠見千喜恵子、坂元唱子
- ・ 当局:高崎総合支所産業建設課、観光スポーツPR部みやこんじょPR課の各課長および担当職員

説明者

- ・ 各視察場所において、高崎総合支所産業建設課および観光スポーツPR部みやこんじょPR課の課長および担当職員が説明を担当。

視察目的

- ・ 農業基盤整備の現状確認
- ・ 指定管理制度の運営状況確認

視察内容

1. 谷川用水
農業基盤の重要性や老朽化施設の補修、水量管理の課題を確認。
2. 高崎農産加工センター
地元農産物の加工・販売の現状や、指定管理者制度による運営課題を確認。
3. たちばな天文台
天文教育施設としての役割や老朽化、運営面での課題を確認。

今後の課題

- ・ 谷川用水:老朽化対策と予算確保
- ・ 高崎農産加工センター:ブランド化と観光誘致の強化
- ・ たちばな天文台:施設改修と魅力向上

谷川用水路に関する報告

谷川用水路は昭和初期に建設され、110 年以上にわたり地域農業を支える重要な基盤として機能してきた。しかし、令和 4 年 8 月に発生した 5 号トンネルの崩落により、通水が不能となる深刻な事態に直面した。この災害により、地域農業に大きな影響が生じており、現在、復旧工事が国庫補助事業として進行中である。災害発生当初、仮設工法や掘削工法を用いた復旧が計画されたが、作業中に硬度の高い岩盤が発見されるなど、予期せぬ課題が浮上した。このため計画の変更を余儀なくされ、一時的に工事が中断する事態となった。その後、H 型鋼支保工を用いたトンネル新設工法が採用され、現在は令和 6 年 5 月末の仮通水を目指して作業が進められている。現場では、湧水の発生や二次災害の危険性が高く、作業環境は非常に厳しい状況にある。特に、トンネル内での酸素濃度の減少が懸念されており、これに対応するため、酸素濃度の検査を 1 日 2 回実施するなど、安全対策が徹底されている。作業員は厳しい条件下で復旧作業に従事しており、その労力は非常に大きい。既存の 5 号トンネルについては、今後の課題としてその扱いが検討される必要がある。

今回の視察を通じて、谷川用水路が地域農業にとっていかに重要なインフラであるかを再認識する機会となった。この用水路は総延長 9km に及び、110 ヘクタールもの受益面積を支えている。そのため、早期復旧が地域農業の持続的発展にとって不可欠であることが確認された。災害後、農業ができない状況が続いており、農家への経済的影響が深刻であることも明らかとなった。用水路の復旧が遅れば遅れるほど、農業生産への被害が拡大し、地域経済にも悪影響を及ぼす可能性が高い。今回の災害を教訓として、今後の災害対応能力の向上が求められる。具体的には、用水路の現況調査を地域住民と連携して行い、将来的な災害リスクへの備えを強化する必要がある。また、災害発生後の迅速な対応を可能にするため、関係機関との連携体制をさらに強化することが重要である。加えて、今回の復旧工事の記録を詳細に残し、同様の災害が発生した際の参考資料として活用できるようにすることも求められる。谷川用水路の復旧は、地域農業の再生と発展に向けた大きな一歩である。復旧工事が完了すれば、地域の農業生産が回復し、住民の生活も安定することが期待される。しかし、それを実現するためには、引き続き関係者が一丸となって復旧作業を進める必要がある。今回の災害を契機に、地域全体で防災意識を高め、用水路の維持管理体制を強化することが重要である。

高崎農産加工センター(星の駅たかざき)に関する報告

高崎農産加工センター、通称「星の駅たかざき」は地域農業の発展と地産地消の推進を目的とした施設である。この施設は、農産物の加工や販売を通じて地元農家の支援を行うだけでなく、地域住民や観光客に高崎産の新鮮で高品質な農産物を提供する役割を担っている。また、加工体験やイベントを通じて、農業や食に対する理解を深める場としても機能している。

星の駅たかざきでは、地元で収穫された農産物を使用した加工品の製造が行われており、特に人気のある商品としてジャム、ドレッシング、漬物などが挙げられる。これらの加工品は、地元の特産品を活かした独自の味わいが特徴であり、観光客や地元住民に広く支持されている。また、施設内には直売所が併設されており、新鮮な野菜や果物、加工品が手軽に購入できるほか、季節ごとの特産品フェアや試食イベントも開催されている。さらに、この施設では農産加工体験プログラムが充実しており、訪問者がジャム作りや味噌作りといった加工体験を楽しむ。これらのプログラムは、子どもから大人まで幅広い世代を対象としており、家族連れや学校の課外活動、観光客のグループに人気が高い。体験を通じて、地元農産物の魅力や加工食品の作り方を学ぶことができるため、農業や食文化への関心を高める効果がある。一方で、星の駅たかざきは施設の運営面でいくつかの課題にも直面している。特に、近年の人手不足や原材料費の高騰が影響しており、安定した加工品の供給やサービスの維持が難しくなっている。また、地域外からの観光客誘致が十分に進んでいない点も課題とされている。これに対応するため、施設では SNS やオンライン販売を活用した新たな取り組みを進めており、地元農産物の認知拡大と販路拡大に向けた努力が続けられている。

今回の視察を通じて、星の駅たかざきが地域農業の活性化や地産地消の推進において重要な役割を果たしていることを改めて確認した。この施設は、単に農産物を加工・販売する場に留まらず、地域住民や観光客が農業や食文化に触れる貴重な機会を提供している。今後は、施設の運営基盤を強化するとともに、観光資源としての魅力をさらに高めるための取り組みが求められる。特に、地域外からの観光客誘致や地元農産物のブランド化を進めることで、持続可能な運営を実現し、地域全体の発展に寄与することが期待される。

たちばな天文台に関する報告

たちばな天文台は旧高崎町時代に地域の天文学普及を目的として設立された公共施設である。平成3年の開設以来、長年にわたり市民や天文愛好家に親しまれてきた。郊外の立地は光害が少なく、天体観測に適した環境を提供している。現在では教育活動や観測会を通じて、地域住民に宇宙への興味を広める拠点として機能している。天文台の最大の特徴は、口径50cmの反射望遠鏡を備えている点である。この望遠鏡は県内でも最大級の規模を誇り、月や惑星、星雲、星団などの詳細な観測を可能にしている。また、デジタル機器を活用した観測データの収集や解析が行われ、専門研究者にとっても貴重な拠点となっている。天文台では定期的に天体観測会や講座が開催されており、特に夏季や冬季には流星群や月食などの天文現象に合わせた特別観測会が行われている。これらのイベントは、天文学の専門知識を持つスタッフによる解説付きで実施され、参加者が宇宙の広大さや神秘に触れる機会を提供している。また、子ども向けのワークショップやプラネタリウム投影会も行われており、次世代の科学者や天文学者を育成する場としても重要な役割を果たしている。

一方で、施設の老朽化が課題となっている。建設から数十年が経過し、一部の設備に更新が必要な状況が見受けられる。特に望遠鏡や観測機器のメンテナンスが求められている。これに対応するため、令和7年10月から令和8年11月まで改修工事が行われている。また、近年のデジタル技術の進展を背景に、オンライン観測やリモート講座など新たな取り組みも検討されている。

今回の視察を通じて、たちばな天文台が地域社会における科学教育や文化振興の拠点として重要な役割を果たしていることを再認識した。天文学は、地球や人類の存在を広い視野で捉える学問であり、その普及は地域住民の科学的素養を高めるだけでなく、自然や宇宙への関心を深める効果がある。今後は、施設の維持管理や新技術の導入に加え、学校教育との連携を強化し、より多くの子どもたちが天文学に触れる機会を提供することが求められる。

産業経済委員会行政視察報告書（感想等）

※委員ごとに作成し報告書に添付

委員名 川内 賢幸

1 視察の感想

◎谷川用水路について

谷川用水路については、令和4年の災害でトンネルが崩落したため早期復旧を目指して着工していたが、想定外の硬度の岩が復旧ルートに出たために、災害復旧が1年遅れることになった。現場状況等を現地で確認することがなかったが、今回の視察で地域農業の基盤整備として非常に重要な用水路であることが改めてわかった。

総延長は9kmに及ぶ用水路で、受益面積は110ヘクタール。これだけの受益面積で2年弱にわたって農業ができていないため、早期復旧が急務となっている。現場を視察し、改めて、復旧が難工事であること、本年の田植えまでに間に合わせるように応急復旧を行う点などを確認できた。事故等に気をつけて工事完了までがんばっていただきたい。

◎高崎町大牟田加工センター（星の駅たかざき）

高崎町大牟田農産加工センターは、平成6年から供用開始されている施設である、高崎町を始め、市内外から親しまれてきた施設である。今回、老朽化と、さらなる顧客獲得のためにリニューアルを行うものである。

当該施設には長年通っているが、現在の指定管理者になってからは、新たな取組にも積極的に取組んでおり評価できる一方、施設の老朽化等の課題があった。

今回のリニューアルでは、施設の雨漏り等の修繕を行う他、イートインスペースを新たに設置することで地場産品のさらなるPRと来客増加につなげることを狙いとしていた。指定管理者においては、当初より意欲的に、また、これまでの歴史を大事に運営にあたっていることから今後にも期待したい。

◎たちばな天文台

たちばな天文台は、合併前の旧高崎町時代に作られた施設であり本市唯一の天文台である。平成3年の開館から30年以上が経過しており、施設の老朽化や設備の更新が急務であった。

2年前に会派でも調査しており、今回天文台のリニューアルが事業化されたことはありがたい。令和6年度から令和8年度までの3年間にわたりリニューアルしていく予定となっている。

特に、精密機器を扱う施設としては望ましくない雨漏りや、空調の老朽化の更新が急がれる。また、心臓部である望遠鏡も耐用年数が過ぎており、機材の更新が急がれる。

担当職員においては、天文学に長けており、全国からも評価が高いことから今回のリニューアルを機に、かつての日本一星空の美しい町にある天文台の復活を願う。

2 視察の成果及び本市議会への反映等

◎谷川用水路について

谷川用水路は110年前に整備された水路であり、近年の大規模災害に対する耐用力を考えると、さらなる災害が発生することも十分に考えられる。

特に水路総延長9kmに及び、そのうち3kmがトンネル等になっていることを考えると、今回と同様の被害が発生することも十分に考えられることから、市においては、これを機に水路の現況調査を、市民の協力を得ながら行い備えておくことが重要と考える。

また、市内には古い歴史を持つ用水路が他にもあることから、担当課を中心に災害時に備えた事前の動きが求められる。

具体的には受益者である市民との情報共有を密にすること、災害後の調査では見落としがないように調査箇所を上げておくなどの対応が必要である。発災後の対応が遅れば、予算執行にも影響が及び、今回のように農作物の栽培ができない事態につながることから、今一度関係各課との連携も怠ることなく行うべきである。

この他、実際の工事状況から労災などの危険性もはらむ現場であることから、作業においては受託業者等と情報交換、共有、連携を密にする必要もある。全国では類似工事の事故報告もあることから細心の注意を図っていただきたい。

さらに、今回の工事は、今後類似災害が発生した際の前例になることから、早期復旧に向けてしっかりと記録と引き継ぎを行っていくべきである。

◎高崎町大牟田農産加工センター

高崎町大牟田農村加工センターは、長年にわたり地域住民で組織された高崎町農産加工センター事業協同組合の手で運営されてきた施設である。2020年から「星の駅たかざき」として、現在の指定管理者ループスとなった。ループスの代表は、本市に地域おこし協力隊として移住し、当該施設で勤務した経歴が有り、これまでの管理者の思いや施設のことを理解されている。

指定管理者となっても、意欲的な取組を続けていることから、今回のリニューアルを通じて、新たな取組と利用者増加に期待が持てる。

一方で、本市としては、当該施設のPRが不足していることから、市内にある道の駅都城NIQLL、道の駅山之口、市場の駅セボンチマルシェ、新滝の駅などとの合同イベントや広報誌などでの周知、イベント創出などに積極的に取り組み、市民により一層親しまれる施設となるようすべきである。

◎たちばな天文台

たちばな天文台がある高崎町は、これまで「日本一星空の美しい町」に7回選ばれた実績がある。その長所を活かし平成3年に開館した施設で、現在でも年間を通じて様々なイベントを行い、施設の活性化や本市のPRに取り組んでいる。

一方で、開館から30年以上が経過しており、空調やトイレの老朽化はもちろん、天文台としては致命的な、望遠鏡の老朽化や雨漏りが深刻な状況である。

今回のリニューアルは3カ年計画で行うことになっており、その間に発生する修繕など

にもしっかりと取組む必要がある。

あわせて、リニューアル後はわかりやすい案内看板の新設やイベント構築、対外的なPRなど積極的に行い来館者を増やす取組が求められ、観光協会などともしっかりと連携を図りながら活性化につなげるべきである。

関連になるが、駐車場のあり方などについて今後検討すべき課題もあることから委員会としても継続的に取組んでいかねばならない。

提出日 令和6年4月10日

産業委員会視察報告書

以下のとおり視察の報告をいたします。

1 会派名及び視察者名

令和創生

楠見 千穂子。

2 視察先・テーマ及び日時

日時：令和6年4月10日 午前9時～午後13時10分

視察先：高崎町谷川用水

調査事項：谷川用水路の受益地と崩落したトンネルの位置
施設の現状と課題

高崎農産加工センター
施設の現状と課題

たちばな天文台リニュアル事業
施設の現状と課題

3 視察の内容

谷川用水路

谷川用水路の所在地、水路全体の視察(水路入口→水路内部)

崩落から谷川用水路復旧事業の概要

建設当時の施設の概要(昭和初期)以前の改修の経緯、今回の大規模改修の概要

高崎農産加工センター

地域で生産される農産物に付加価値をつけ特産品として販売

施設全体の視察、施設の改修工事について、屋根の改修、外壁の塗装工事

冷凍・冷蔵庫等の備品購入について

たちばな天文台

平成3年に整備されたたちばな天文台の視察。

建設から30年以上が経過し、老朽化が進みリニュアル整備を予定。

施設の改修として、和式トイレの様式化、建物の雨漏り修繕、湿気対策、望遠鏡室のテントの張替え等、大型望遠鏡の更新、モバイルプラネタリウム購入等

4 視察の感想

谷川用水路については、昭和初期建設の水路工事については、水路やずい道建設等は、穴を掘り水の確保を行い、農業所得の倍増、町民の生活、文化の向上が図られたことは、当時の施策としては大変な苦勞もあったと思われ、すごい事業をされたと思った。

工事費用や工事にかかわった人たちの苦勞も大変であったと思われる。100年以上使用されてきたが、老朽化により令和4年8月にトンネルが崩落して通水不能になり現在復旧工事が行われ、ずい道の内部を視察したが現在でも建設は岩盤の硬さや湧水の流れ込みなど、相当の苦勞が感じられた。

高崎農産加工センターは、以前何回か訪れたことがあった。地域で生産される農産物を加工して付加価値をつけ販売することは素晴らしいと思われ、今後も積極的な活動を行う拠点として、中山間地域のリーダーとして活性化していただきたい。

たちばな天文台は、小学校の遠足でもよく利用されていると聞いている。本当に、老朽化が進行していると思われ早急なリニューアルを実施してほしいし、「日本一星空の美しい街」にも選出されていることもすばらしい地域と思った

5 視察の成果及び市政への反映等

谷川用水路については、大変な工事ではあるが水路の確保は、農業の所得倍増や農業の発展には必要なことなので早急な復旧工事を実施することは重要なことである。

高崎農産加工センターは、指定管理者の事業所ではあるが、自主事業としてイベントの実施をしていることは、集客率を向上させるうえで重要と考える。

たちばな天文台は、全国の自治体1,718自治体があるが天文台のある自治体は300から400件位ということで、市が守っていかなければならない施設と考える。大型望遠鏡も古いが高性能の望遠鏡であると説明があった。

老朽化が激しく、雨漏りや結露があり望遠鏡には最悪の環境であるため、早急な改修工事を市は実施する必要がある。

6 添付資料

なし

産業経済委員会行政視察報告書（感想等）

※委員ごとに作成し報告書に添付

委員名 坂元 唱子

1 視察の感想

産業経済委員会になってはじめての管内視察を行った。

今年度予算で計上されている事業3か所（高崎町）を視察。

【谷川用水路】

令和4年8月に5号トンネルが崩落し、通水が不能となっている為、国庫補助事業を活用し復旧作業を行っている。本年度仮通水を行うため、通水が始まる前に視察を行った。

トンネル内の壁や頭上には無数の木材がはめ込まれており、地面は水が溜まっている所や、全体的にぬかるんでいた。この現場は、湧水が多く、あちこちから水が滲み出ているとの事。また、再崩落による二次災害の危険性が高いことが分かり、水路を大きく迂回させる仮設工法が行われており、既存のトンネルの横に新たに掘削されていた。地盤は粘土質やシラス質等と様々で、高硬度の岩盤も発覚し、一時工事の中止をしたこともあったと伺った。実際にトンネル内に入り、工事関係者の方々が、いかに危険な中で作業を行っているか、また、安全に作業していただく為の計画や準備の大変さを痛感した。湧水が多いため、水が大量に入ってくると逃げ場がないとの説明も受け、常に命がけの作業であることを実感。いかに早く安全に工事を進めていくか、細心の注意を払い行われている。実際に現場に行かないと分からない事だと思った。

【高崎農産加工センター】（星の駅 たかざき）

約30年ほどが経過しており、今まで改修工事を行っていない為、老朽化しているとの事で、屋根の改修・外壁の塗装工事、冷凍・冷蔵庫等備品の購入を行い、更なる地域産業の魅力を発信するためリニューアルを行うとの事。

具体的には、現在使用されていない加工体験室をイートインスペースにし、メンチカツやハンバーガー、ソフトクリーム等の販売も考えているとの事。

現在、利用されている方は60代～80代の方が多く、リニューアルすることで、若い方や親子、ご家族の方など幅広い世代の方にも来店して頂けるよう、方向転換していきたいとの説明を受けた。施設内には、お惣菜や一番人気のにんじんドレッシングなど魅力ある商品が多いが、売上はかんばしくないとの説明があり、東京や大阪等で外販として商品を出しているとの事。そして倉庫内の冷蔵庫は、常に満杯の状態で、奥にあるものを取り出すときは、手前のものをすべて出してからでないと取り出せず、毎回苦労していると伺い、実際に見せて頂いたが、容量が小さいと感じた。

委託先の代表の方も快く説明や案内をしていただき、とても好感を持った。

これからリニューアルし、さらに魅力を発信できるのではないかと期待が膨らんだ。

【たちばな天文台】

「日本一星空の美しい街」に7回選出された高崎地区のシンボリックな施設ですが、建設から30年以上が経過し老朽化が目立った。

1 番小さなプラネタリウムとして寝ながら見ることのできる施設や大型望遠鏡で観る天体観測は、全国から多くの天文ファンが訪れるとの事。しかし、雨漏りが至る所で見られ、機材が侵蝕され錆びているところも見られた。施設の方は、湿度管理や雨漏りで機材が濡れない様、様々な工夫をされ、頑張っておられた。また、大型望遠鏡に関しては、大幅に耐久年数を超えているため、取扱い業者からは、早く使用を停止してほしいとされているとの事で、今回リニューアルに伴い、更新することになっていると説明を受けた。

そして、トイレは和式のため、子供たちから和式のトイレは使えないと声が上がっていることや水はけが悪い事から洋式化にするとの事。

この素晴らしい施設をリニューアルし、天文ファンのみならず、多くの方に興味を持ってもらえるよう、また市内外から足を運んでもらい、美しい星空を満喫してほしいと実感。都城の観光施設の一つとして、さらに魅力ある発信ができると感じた。

2 視察の成果及び本市議会への反映等

今回、3ヶ所の管内視察を行い、都城市の魅力ある場所や施設がまだまだ沢山あること、そして実際に現場に行かないとわからなかったことが多くあった事を実感した。

現場に携わる方の苦労や労力、工夫を目の当たりにすることができた。谷川用水路修復現場やたちばな天文台については、特にそう感じた。現場に足を運ぶことの大切さを学び、多くの成果があったと思う。

委員会としても、しっかりそうした見えない所、陰に徹する方がいる事を理解し、評価をしていくことが重要と感じた。

リニューアルする2施設については、施設の魅力の発信を含め、これからどう変わっていくのか。また変わったのかを検証していく必要があると思う。そして、観光客の誘致の仕方、1つの場所だけでなく、多くの観光名所を巡るツアーなども考えていけるのではないかとと思う。都城市に観光に行きたいと選んでもらえるような魅力ある発信に力を入れていく必要があると感じた。そして市民の皆様に、もっと知ってもらえるようアピールしていくべきと思う。

これからも注視していきたい。